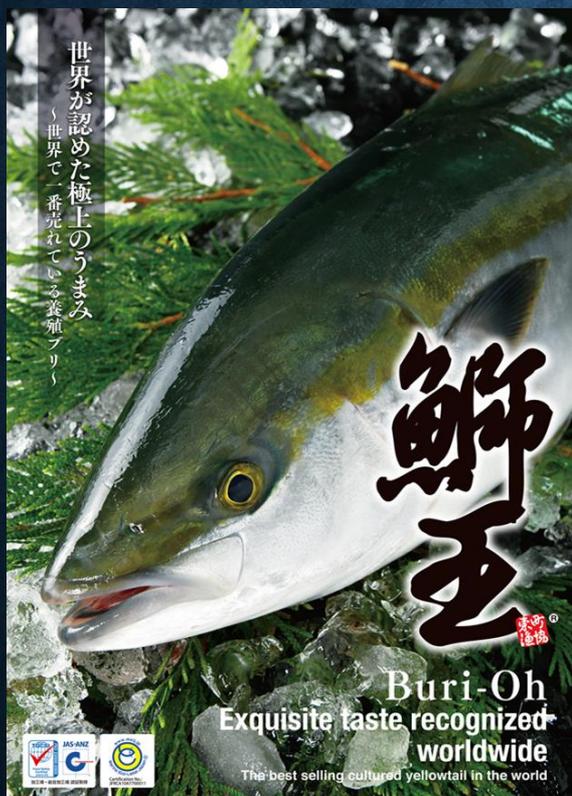




## ナレーション 中園康彦

- 平成2年 東町漁業協同組合に入協
- 平成20年 第二事業部 共販課課長
- 平成26年 販売事業部長に就任 現在に至る
- 鰯王の安定した国内・海外への販売に積極的に展開中
- 鹿児島県長島町（旧東町）に生まれ現在55歳

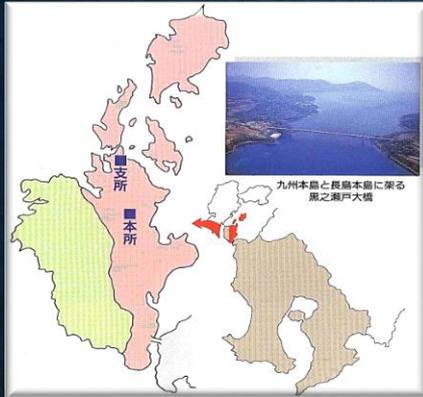
# 「GFPグローバル産地づくり推進事業」 持続可能な養殖・グローバル販売推進



東町漁業協同組合  
中園 康彦

# 東町漁協について

『鮪王』ブランドを築いた、日本一の養殖ブリ産地

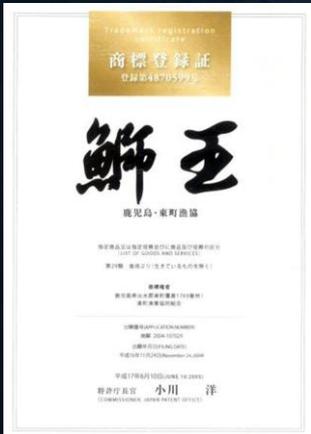


# 東町漁協について

## 『鯡王』ブランドを築いた、日本一の養殖ブリ産地



- 養殖事業への取組は1966年よりスタート、本格的には1971年より**稚魚（モジャコ）**から出荷まで一貫して養殖
- 生産者組合員が家族総出で手伝い、**愛着と責任ある養殖**が代々続く
- 病気・赤潮・台風などの**影響管理**には万全を期している
- 代表産品である『鯡王』は**日本一**の生産量(年間約1万2千トン)を誇り、**世界中**で食されている(**商標登録済**)



# サステナブル・トレーサブルな養殖業

## 認証取得、人工種苗生産、ICT技術導入等を実施



- 持続可能な養殖生産に取り組むべく、ASC認証やMEL認証（養殖生産・加工流通）を取得

- 稚魚トレーサビリティの確保や、SDGs14番目の目標である「海の豊かさを守ろう」など等を目的に、人工種苗を導入(全体の15%程度)



- ICT(情報通信技術)システムにより、生産管理を高度化・効率化(紙媒体での管理からの脱却)

# 輸出取り組みの現状（1/2）

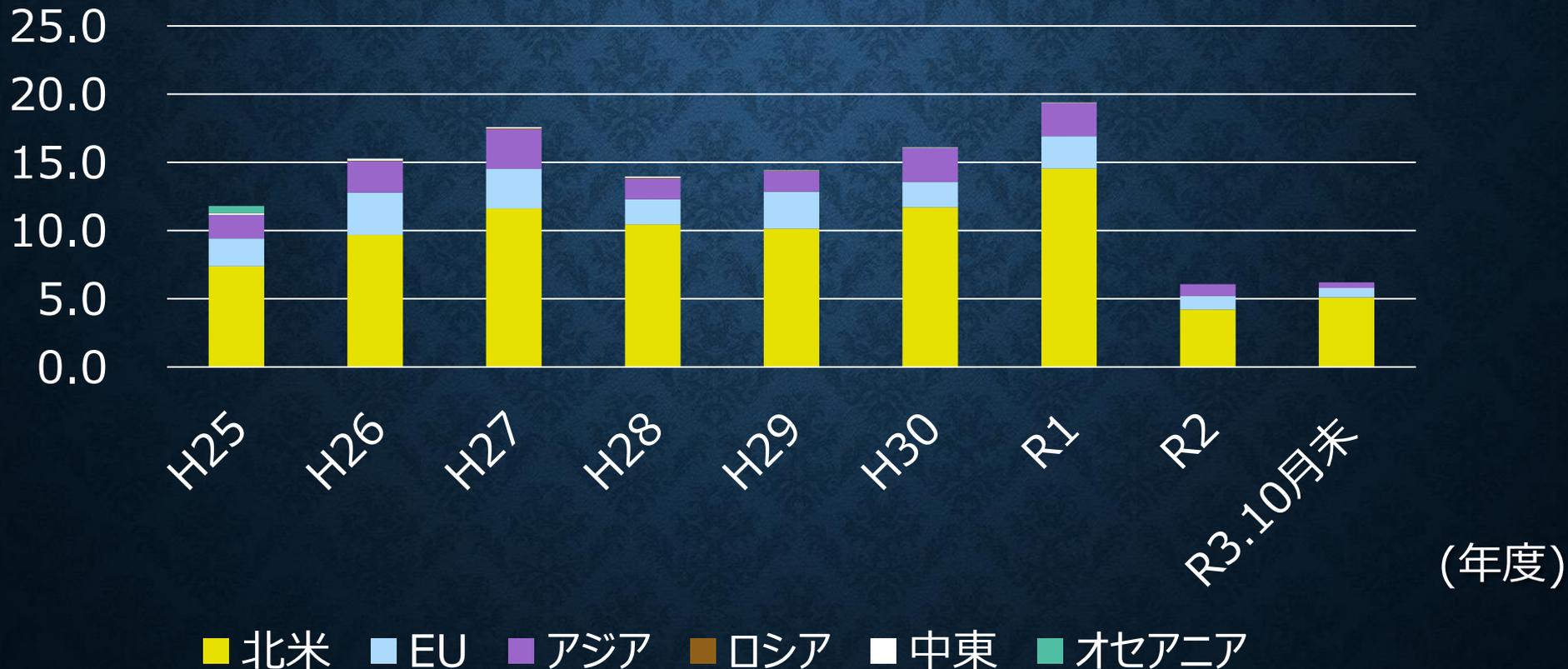
北米を中心にEU・アジア・中東を含めて31か国へ輸出実績



# 輸出取り組みの現状（2/2）

アメリカ外食向けが中心のため、2020年はコロナ影響を大きく受けたが、今年の輸出は回復基調

輸出実績（税抜・億円）



# 今後の輸出拡大へ向けて

## 育種等による、生産コスト低減へ向けた工夫が不可欠



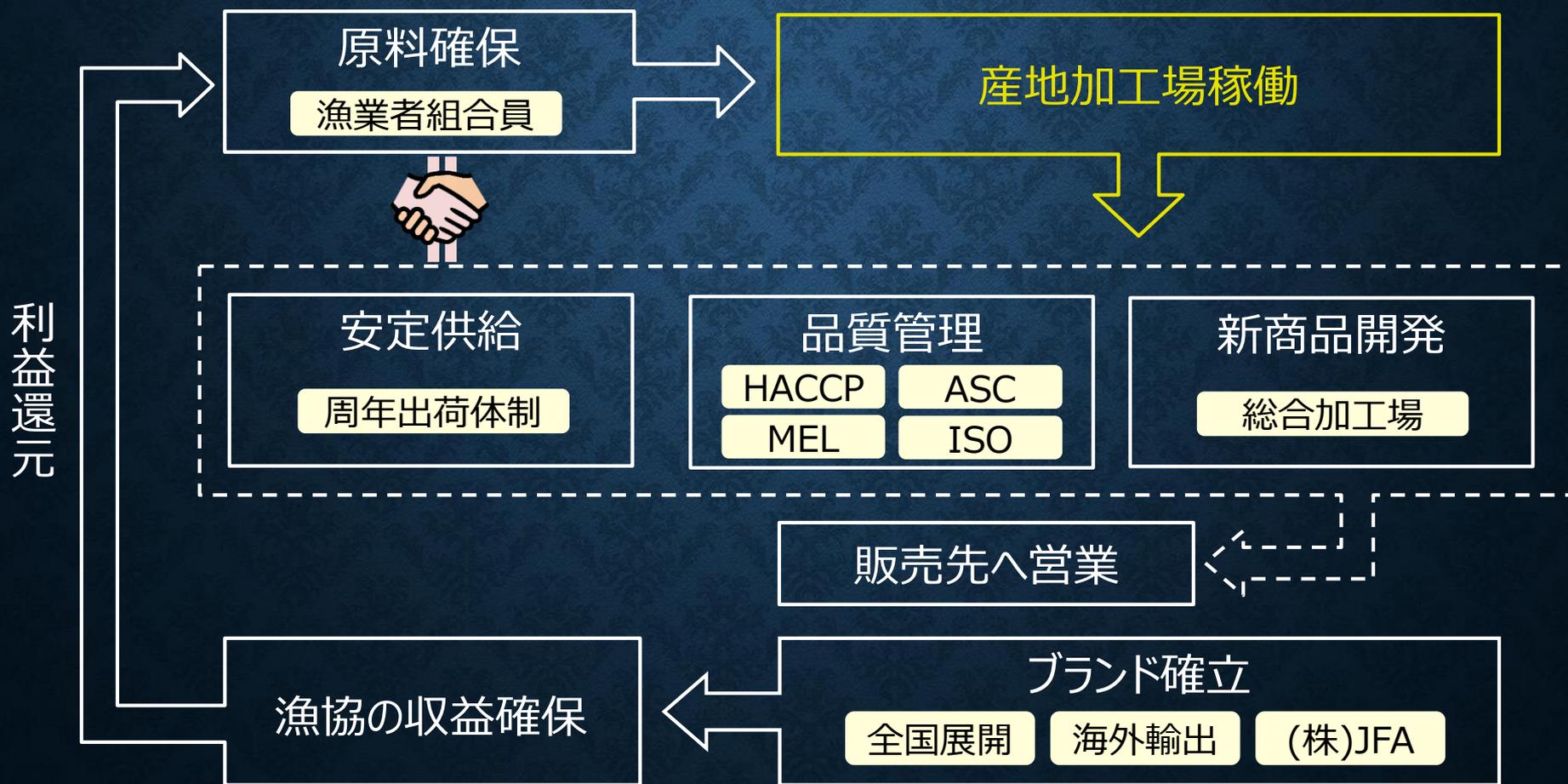
- 海外で人気のあるサーモン等と対等に販路開拓するためには、ブランディングだけでなく**生産コスト低減も不可欠**
- そのためには、**人工種苗**の開発・**育種**が重要



- 餌に占める**魚粉**の割合を抑えても養殖可能な品種開発(現状では餌全体の50%は魚粉)
- **成長スピード**の速い品種開発(現状では成魚になるまで2年必要)

# GFPグローバル産地づくりの基礎

## 産地加工場を持つことで、好循環サイクルを実現



ご清聴ありがとうございます

